

野口遵記念館建設 設計業務プロポーザル
審査報告書

平成30年8月

野口遵記念館建設 設計者選定委員会

1. 審査結果

野口遵記念館建設 設計業務プロポーザルについて、選定委員会で公平かつ公正に審査した結果、以下のとおり、代表企業応募者は、代表企業優秀者、代表企業次点者を選定し、また市内応募者は、市内優秀者グループ、市内次点者グループを選定した。

(1)代表企業応募者について

【代表企業優秀者】

- ・有限会社 香山壽夫建築研究所

【代表企業次点者】

- ・株式会社 新居千秋都市建築設計

【一次審査通過者】 ※名称の50音順

- ・株式会社 アール・アイ・エー九州支社
- ・株式会社 柳澤孝彦タック建築研究所

(2)市内応募者について

【市内優秀者グループ】

- ・有限会社 小嶋凌衛建築設計事務所
- ・株式会社 菊池設計
- ・有限会社 松下設計
- ・株式会社 コトブキ
- ・オーツ設計

【市内次点者グループ】

- ・NOA 建築設計事務所
- ・前田一級建築士事務所
- ・梶原建築設計事務所
- ・建築重黒木事務所
- ・オノ建築設計室

2. 講評

野口遵記念館建設 設計業務プロポーザル 審査講評

野口遵記念館建設 設計者選定委員会 委員長

九州大学大学院 芸術工学研究院 教授 田上 健一

延岡市公会堂野口記念館は、旭化成工業株式会社(当時)から、昭和30年に建設され寄贈を受け、永く市民の文化活動の拠点として大切に使用されてきました。しかしながら、築63年を経過し躯体・設備の老朽化が進行したため、再整備を行うことになり、平成30年3月に「野口遵記念館建設 基本構想・基本計画」を策定し、「公募型プロポーザル方式」により設計者を選定することになりました。

選定にあたって、代表企業選定は1次及び2次審査の2段階とし、2次審査では公開プレゼンテーション・ヒアリングを実施することとしました。また、市内企業選定は技術提案審査のみとしました。

設計者選定委員会は9名の委員で構成され、1次・2次・技術提案審査それぞれに、各選定委員が投票・集計し順位を決定することとしました。

代表企業4者、市内企業2グループから参加表明があり、その後各者から技術提案書が提出されました。

7月27日に、参加表明書及び技術提案書による1次審査及び市内応募者の技術提案審査が行われ、代表企業4者と市内優秀者1グループ、市内次点者1グループが選定されました。

さらに、8月26日に延岡市役所で公開プレゼンテーション・ヒアリングが実施されました。会場には80名以上の出席者があり、関心の高さが窺えます。公開プレゼンテーション・ヒアリング後に、選定委員全員で意見交換後、各選定委員の評価点を集計し、代表企業優秀者(受託予定者)1者、代表企業次点者1者を得点順に決定しました。

4者すべて意欲的で魅力的な提案があり、選定委員会では活発な議論が展開されました。

〈代表企業A 株式会社新居千秋都市建築設計〉は、豊富なホールの実績をもとにしたバランスのとれた完成度の高い提案でした。「緑の丘」による歴史的景観への配慮も十分であり、多機能ホールの性能も詳細に検討された上で、災害時の防災拠点としての提案もされています。市民ワークショップによる市民との協働への熱意も高く、竣工後も円滑な運営が期待できます。しかしながら、総合的な得点は優秀者の案に及びませんでした。

〈代表企業B〉は、全体を「分散配置」という意欲的で挑戦的な提案でした。建築が「固く閉じた塊」となることを避け、「檣の緩用」「枱形の引用」「たまり」などで生まれるゆるやかな空間は、市民活動や交流を大きく

広げる可能性に満ちています。しかしながら、評価は二分しました。建築的評価が高かった一方で、管理的側面から強く否定的な意見・指摘がありました。ホールの機能性、歴史的景観への配慮、建設コストシミュレーションも十分であったため、一部の選定委員を納得させる管理面での具体的な説明が必要でした。

〈代表企業C〉は、都市軸を引き込みながら施設内外の「回遊性」を高めた提案でした。プランニングの方針がたいへん明快であり、全体が「表・裏」のない空間形式は、城山の敷地条件にも合致する合理的なものでした。一方で、100m コリドーの具体的な活用法、楽屋を含む裏方空間のゾーニングと管理方法、吊物や幕収納機構に対する指摘が相次ぎ、得点は伸びませんでした。

〈代表企業D 有限会社香山壽夫建築研究所〉は、都市の歴史的成り立ちへの深い理解と止揚、建築計画の合理性、多機能ホールの機能性、コスト縮減、設計の進め方等において最も緻密な提案でした。全体ボリュームをコンパクトにしながらも、「門」の引用による場の拠点性・象徴性を高めた計画にほとんど破綻は無く、完成後の持続的な運営についても、空間的配慮も含めたボランティアの育成等の具体的な言及がありました。「記憶の継承」「新しい延岡のひかり」等の設計コンセプトの明快さと奥深さ、地域の歴史・文化への尊敬と理解は、多くの選定委員の共感を獲得しました。

公開プレゼンテーション・ヒアリング後、選定委員会での意見交換を踏まえて、各選定委員の評価の集計を実施しました。その結果、代表企業優秀者に〈有限会社香山壽夫建築研究所〉、代表企業次点者に〈株式会社新居千秋都市建築設計〉が決定しました。

最後になりましたが、ご提案いただいた企業各社の方々、公開プレゼンテーションにご参加頂いた市民の皆様に深く敬意を表するとともに、新しい野口遵記念館がさらに市民に親しまれる施設としてスタートすることを祈念致します。

野口遵記念館建設 設計業務プロポーザル審査の経過

1. 審査経過

今回の設計者選定にあたっては、学識経験者及び地域代表者、行政関係者で組織する「野口遵記念館建設 設計者選定委員会」を設置して、「公募型プロポーザル方式」により審査することとし、平成 30 年 6 月 4 日に実施要領等の公告を行いました。

その後、技術提案書等の提出のあった代表企業応募者 4 者、市内応募者 2 グループについて、同選定委員会において厳正に審査し、設計者を選定しました。

審査の経過及び結果については、以下のとおりです。

(1) 第 1 回 野口遵記念館建設 設計者選定委員会(平成 30 年 5 月 18 日)

委員長及び副委員長の選任を行った後、平成 29 年度に策定した「野口遵記念館建設 基本構想・基本計画」について内容を確認しました。その後、設計者選定までのスケジュールを検討するとともに、プロポーザル実施要領等について審議し、修正を求めたうえ、次回委員会にて実施要領を確認することを決定しました。

(2) 第 2 回 野口遵記念館建設 設計者選定委員会(平成 30 年 5 月 25 日)

プロポーザル実施要領等の、修正事項の確認を行い、審議し決定しました。

プロポーザル実施要領に示した技術提案書の課題は次のとおりです。

【代表企業応募者】

- A. 中心市街地における歴史文化ゾーンの位置付けや、延岡城跡、市庁舎、周辺道路などの周囲との関係性を勘案し、計画敷地の立地を最大限に活用する基本的な考え方
- B. 全ての市民の主体的、自主的な文化芸術活動を支える施設としての計画とユニバーサルデザインの考え方
- C. 建物高さを最大限に活用した劇場施設の設計(音楽重心型のホールでありながら、延岡市の文化芸術を支え、文化的アイデンティティを蓄積してゆく施設の一つとしての多機能ホール計画の考え方)
- D. 地場産材を十分に取り入れた温もりのある空間が、市民の憩いの場・コミュニケーションの場となり、開かれた施設としての日常的な交流や賑わいを生み出す施設計画の考え方(野口遵翁の人物像を紹介し、顕彰する「ギャラリー」と、工業都市延岡の黎明期の姿などを伝え、市民の誇りを育む「展示室」及び、多目的利用が可能なフリースペース(※1)の有効な配置計画の考え方)
- E. 設計プロセスにおいて並行していく管理計画との関係や、施設管理者・利用団体者はもとより、市民の意見・要望を設計に反映させるための方法や考え方

F.省エネルギー等、環境に配慮した技術や工夫を凝らし、施設整備及び維持管理コストの低減化の考え方(施設のロングライフ化や環境負荷低減等)

※1 「フリースペース」とは、200～250名程度の全体会議や分散会議に対応し、ミニコンサートの開催や、音楽、ダンス、演劇等の練習室及び大楽屋としての機能等、フレキシブルに対応する室

【市内応募者】

G.市民の文化芸術活動・交流拠点となる施設

H.地域特性や地場産材の活用の考え方について

(3) 第3回 野口遵記念館建設 設計者選定委員会(平成30年7月11日)

事務局より、応募者数の報告後、第一次審査及び技術提案審査のスケジュールの確認、評価基準の内容について審議し決定しました

(4) 第4回 野口遵記念館建設 設計者選定委員会(平成30年7月27日)

市内応募者の「技術提案審査」と、代表企業応募者の「第一次審査」を行いました。

①【技術提案審査(市内応募者)】

市内応募者の技術提案審査については、設計グループ名を伏せて、2グループそれぞれの提案内容等について委員間で意見交換を行い、理解を深めた後、委員各々が、業務実績・技術力・提案課題の内容等を精査したうえで採点を行い、その総得点によって順位をつけ、次のとおり優秀者と次点者を決定しました。なお、姫野委員が都合により欠席の為、8人の委員で審査を行い、450点満点のところを、400点満点に変更することを委員会で決定し審査を行いました。

○市内優秀者グループ(336点/400点中)

- ・有限会社 小嶋凌衛建築設計事務所
- ・株式会社 菊池設計
- ・有限会社 松下設計
- ・株式会社 コトブキ
- ・オーツ設計

○市内次点者グループ(212点/400点中)

- ・NOA 建築設計事務所
- ・前田一級建築士事務所
- ・梶原建築設計事務所
- ・建築重黒木事務所
- ・オノ建築設計室

②【第一次審査(代表企業応募者)】

代表企業応募者の第一次審査については、企業名を伏せて、4 者それぞれの提案内容等について委員間で意見交換を行い、理解を深めた後、委員各々が、業務実績・受賞歴・チームの能力・提案課題の内容等を精査したうえで採点を行い、その総得点によって順位をつけ、次の 4 者を第二次審査の対象者とすることを決定しました。なお、姫野委員が都合により欠席の為、8人の委員で審査を行い、900 点満点のところを、800 点満点に変更することを委員会で決定し審査を行いました。

審査終了後、次回開催の第二次審査のスケジュール確認を行い終了しました。

○第二次審査対象者(※名称の 50 音順)

- ・株式会社 新居千秋都市建築設計
- ・株式会社 アール・アイ・エー九州支社
- ・有限会社 香山壽夫建築研究所
- ・株式会社 柳澤孝彦タック建築研究所

(5) 第 5 回 野口遵記念館建設 設計者選定委員会(平成 30 年 8 月 26 日)

第一次審査を通過した代表企業応募者 4 者について、企業名を伏せて「公開プレゼンテーション・ヒアリング」を実施しました。

各者ごとに、制限時間 20 分で、提案内容についてプレゼンテーションを行い、その後制限時間 20 分で、選定委員との間で質疑応答を行いました。

公開プレゼンテーション・ヒアリング終了後、別会場において、各者の提案内容について委員間で意見交換を行い、理解を深めた後、委員各々が、再度精査のうえで採点を行い、一次審査と二次審査の得点を加算した総得点によって順位をつけ、代表企業優秀者、代表企業次点者を決定しました。

○代表企業優秀者

有限会社 香山壽夫建築研究所(得点:2,438.8 点/2,600 点中)

○代表企業次点者

株式会社 新居千秋都市建築設計(得点:1,717.2 点/2,600 点中)

2. 野口遵記念館建設 設計者選定委員会委員

- 委員長 田上 健一（九州大学大学院 芸術工学研究院 教授）
- 副委員長 三宮 基裕（九州保健福祉大学 社会福祉学部 准教授）
- 委員 姫野 由香（大分大学 理工学部 助教）
- 〃 是永 幹夫（ホルトホール大分みらい共同事業体 統括責任者）
- 〃 垂水 健治（元(公財)福岡市文化振興財団 現職:劇場アドバイザー）
- 〃 今村 愛子（のべおか第九を歌う会 会長）
- 〃 甲斐 典明（延岡史談会 副会長）
- 〃 山本 一丸（延岡市副市長）
- 〃 片伯部 光太郎（延岡市都市建設部長）